

口腔組織に与える影響も大なるものがあると思われる。そこで演者らは乳歯に放射線照射を行い、口腔組織の変化を検索しているので報告する。

15. 思春期の顎関節症に対する臨床的対応の考察

。大野秀夫，森主宜延，小椋 正

(鹿大・歯・小児)

思春期の顎関節症は、思春期の持つ世代特性からその影響は大きいと考えられる。しかしながら、過去、基礎的調査ならびに臨床的対応について十分な検討がなされていない。演者らは、この疾患の臨床体系の確立を計るため、その原因論を文献展望より考察し、一応の臨床の流れを設定し、その代表的治験例を4例、今回報告する。

16. 治療内容と小児患者の協力性の推移について

。立川義博，井植浩雄，二木昌人，中田 稔

(九大・歯・小児)

小児の歯科治療を行う際、患児の協力性が常に問題となる。不協力児では特にこのことが重要となるが、通常の場合においても、治療内容等と関連して、協力性は同一患児でも変化してゆく。そこで我々は、処置記録表に臨床的に判別できる程度の協力度も併記して、各来院時における患児の Control に役立てている。今回、我々の外来を受診した小児の協力度の変化を追跡して、小児の協力性ということについて考えてみたので報告する。